

## 第2章 景観まちづくりアンケート調査結果

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の目的

◇行橋市景観まちづくりアンケート調査は、本計画の策定にあたり、市民の意見を反映した計画づくりを進めるため、景観についての市民意識を把握することを目的としています。また、調査対象者にとっても質問を受けたことで景観に対する問題意識が喚起され、本市並びに居住する地域の景観形成について考えるきっかけとなり、景観形成基本計画の内容が広く意識され共有される効果が得られることも目的のひとつです。

#### (2) 調査方法

- ◇調査対象：18歳以上の市民2,000人
- ◇抽出法：住民基本台帳より無作為に抽出
- ◇調査方法：郵送配布・郵送回収
- ◇調査期間：平成30年11月
- ◇回収結果：回収数677人、回収率33.9%（白票1票のため、有効回収数は676票）

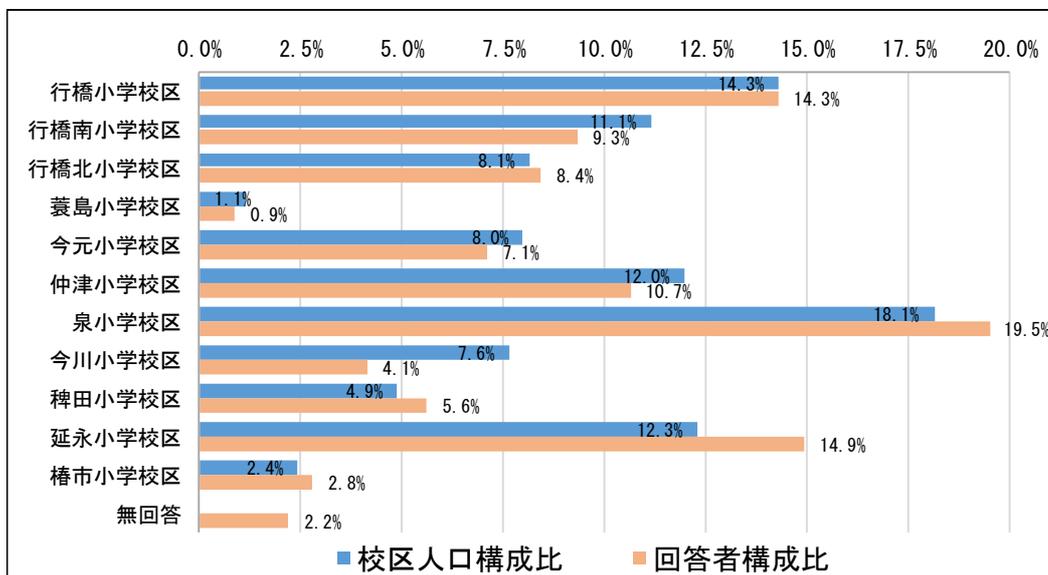
#### (3) 回答者の属性

##### ○問1-1：居住区（地域）

◇回答者の居住区（地域）は、泉小学校区（19.5%）が最も多く、次いで延永小学校区（14.9%）、行橋小学校区（14.3%）となっています。最も少ないのは、養島小学校区（0.9%）となっています。

◇調査を行った平成30年11月の居住区人口（住民基本台帳）と居住区別回答者数の構成比を比較すると、今川・延永の両校区でやや違いが見られるものの、他の校区では概ね合致しています。

#### ■居住区別回答者数と居住区別人口

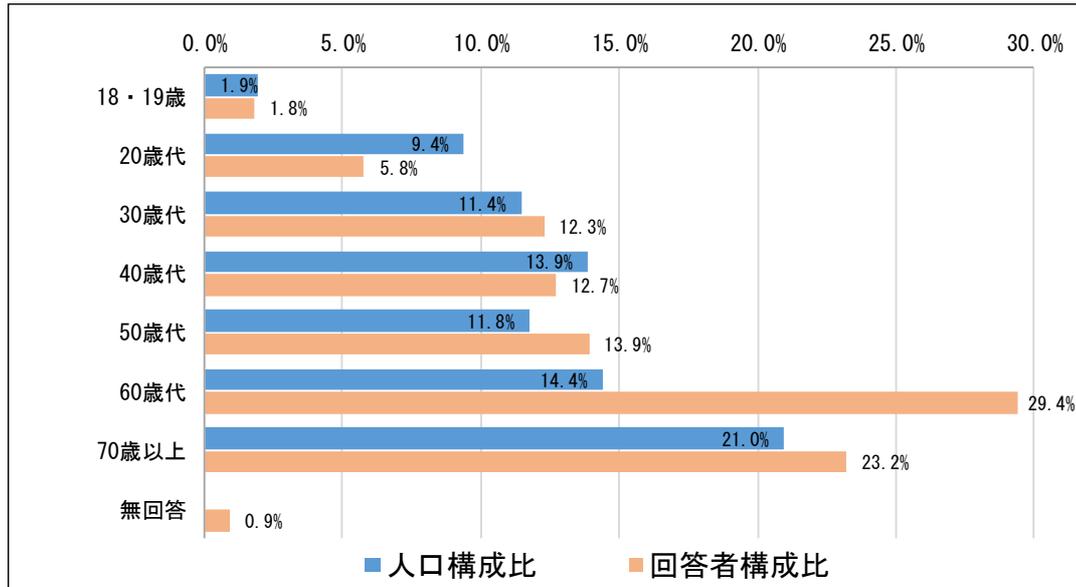


○問 1-2：年齢

◇回答者の年齢構成は、60歳代（29.4%）が最も多く、次いで70歳以上（23.2%）、50歳代（13.9%）となっています。反対に少ないのは20歳未満（1.8%）、20歳代（5.8%）となっています。

◇平成30年11月の年齢別人口（住民基本台帳）と年齢別回答者数の構成比を比較すると、20歳代で人口の割に回答者数がやや少なく、60歳代で逆に多くなっています。

■年齢別回答者数と年齢別人口



○問 1-3：性別

◇回答者の性別は、女性が53.0%と過半数を超え、男性は46.0%となっています。

○問 1-4：職業

◇回答者の職業は、無職（49.0%）が最も多く、次いで会社員（28.4%）、その他（9.0%）、公務員（4.1%）となっています。最も少ないのは、農林漁業（1.2%）となっています。

○問 1-5：居住年数別

◇居住年数別は、20年以上（73.5%）が最も多く、次いで10年以上20年未満（12.4%）、5年未満（6.8%）、5年以上10年未満（6.4%）となっています。

## 2. 集計結果の概要

◇ここでは、主なアンケート調査結果の概要を抜粋して前回調査（平成18年10月実施）と比較して掲げます。なお、調査結果の全ては資料編に掲載します。

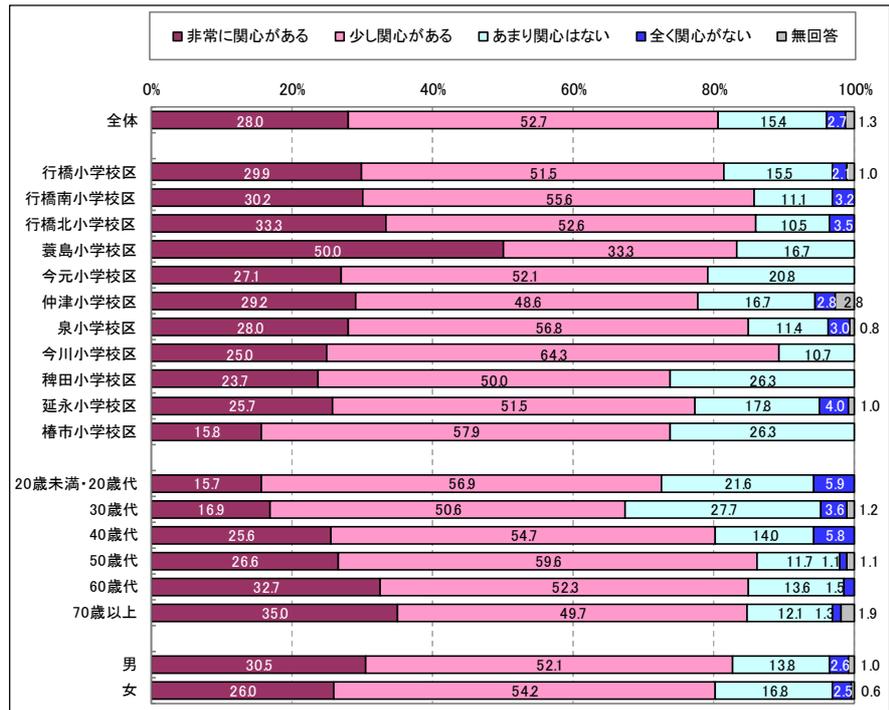
### （1）行橋市の景観について

#### ○問2-1：行橋市の都市景観への関心度

◇本市の都市景観について、市民は今回も前回と変わらずに高い関心度を持っています。

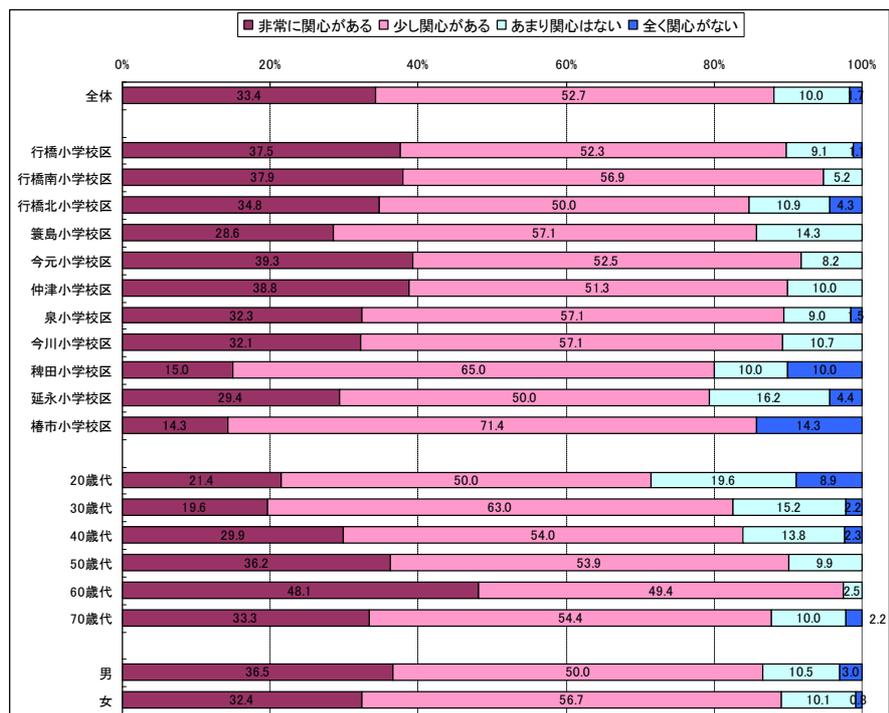
■今回調査集計グラフ

◇今回調査：「少し関心がある」と「非常に関心がある」の合計は80.7%となっています。校区別では、今川小学校区で89.3%と他の校区に比べ関心度が高い割合となっています。年齢別では、年齢が高い世代で関心度が高い割合となっています。



■前回調査集計グラフ

◇前回調査：「少し関心がある」と「非常に関心がある」の合計は86.1%となっています。

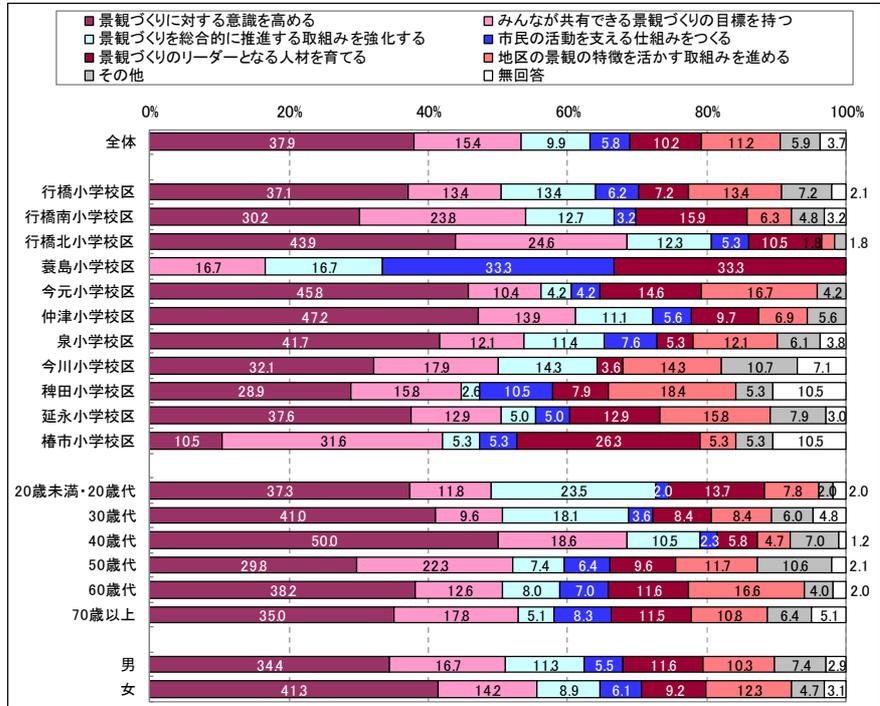


○問 2-3：行橋市の景観を守り、つくり、育てるために必要なもの

◇「景観づくりに対する意識を高める」が、前回 15.1%から今回 37.9%と今回最も多く、前回多かった「景観づくりのリーダーとなる人材を育てる」は今回 4位となっています。

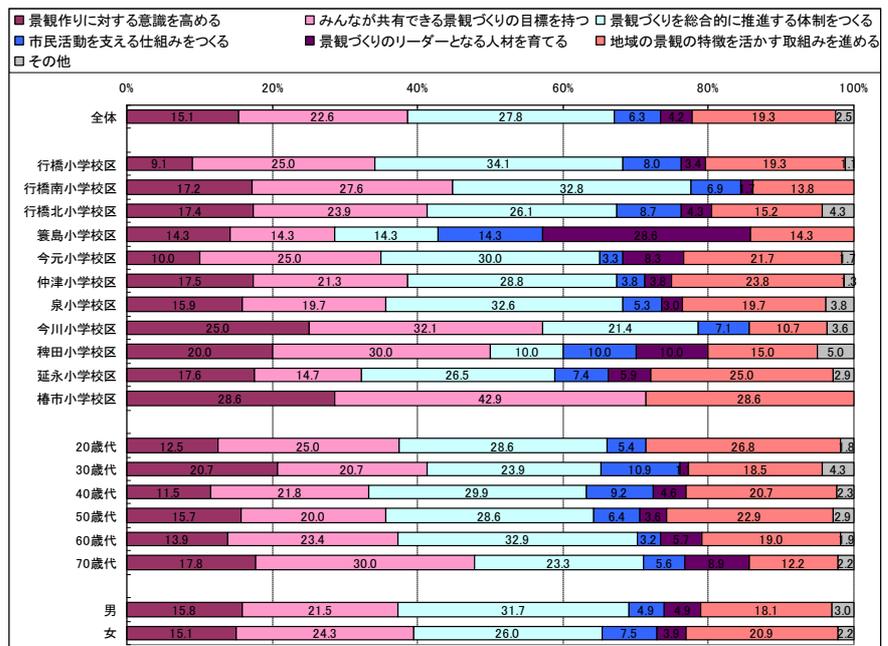
■今回調査集計グラフ

◇今回調査：「景観づくりに対する意識を高める」が最も多く 37.9%、仲津校区と 40 歳代で他と比べ高い傾向を示しています。一方、「市民の活動を支える仕組みをつくる」は少なく 5.8%となっています



■前回調査集計グラフ

◇前回調査：「景観づくりを総合的に推進する体制を整える」が最も多く 27.8%、「景観づくりのリーダーとなる人材を育てる」は少なく 4.2%となっています。

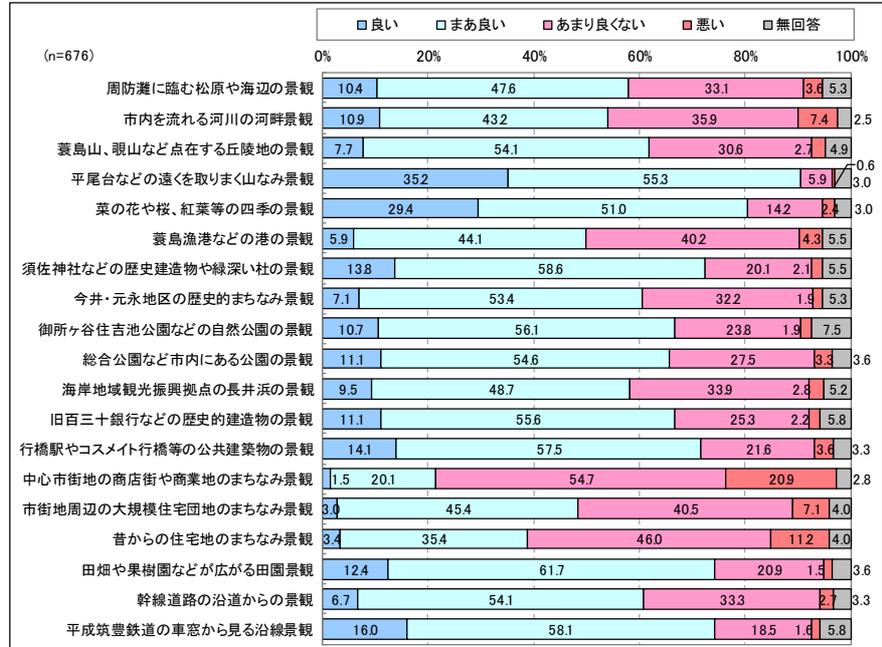


### ○問 2-5 : 行橋市の景観評価

◇前回・今回とも良いの合計が多いのは、「平尾台などの遠くを取りまく山なみ景観」、悪いの合計が最も多いのは、「中心市街地の商店街や商業地のまちなみ景観」となっています。

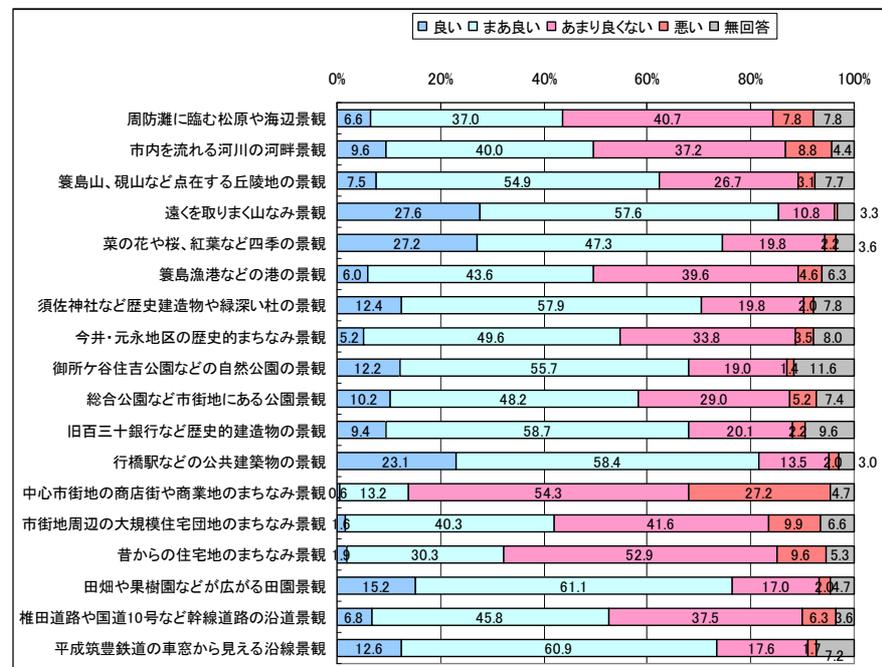
#### ■今回調査集計グラフ

◇今回調査：良いの合計は、「平尾台などの遠くを取りまく山なみ景観」が最も多く90.5%、悪いの合計は、「中心市街地の商店街や商業地のまちなみ景観」が最も多く75.6%となっています。



#### ■前回調査集計グラフ

◇前回調査：良いの合計は、「平尾台などの遠くを取りまく山なみ景観」が最も多く85.2%、悪いの合計は、「中心市街地の商店街や商業地のまちなみ景観」が最も多く81.5%となっています。

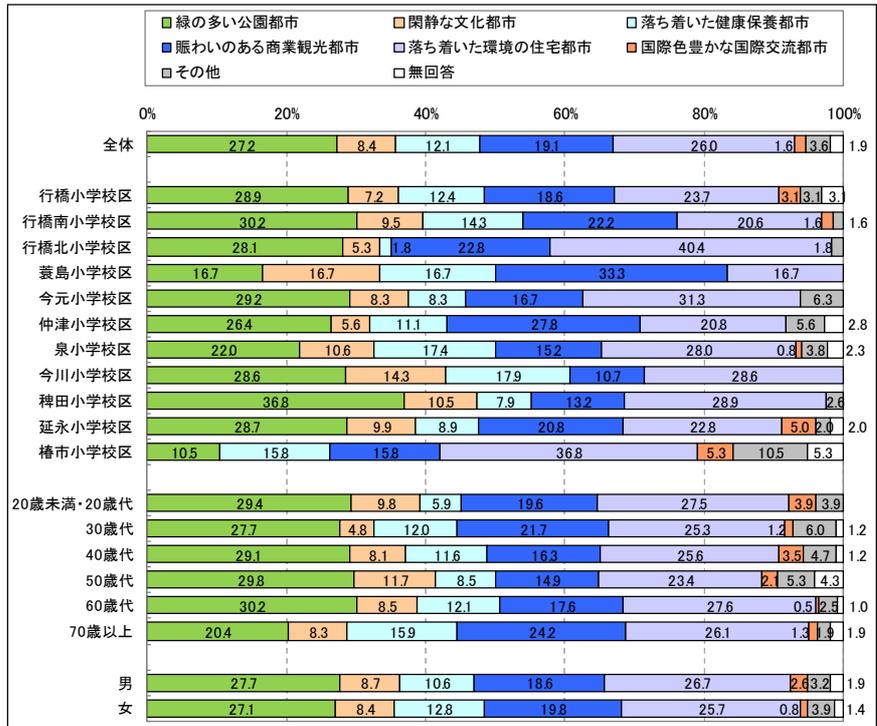


○問 2-6：今後行橋市が目指す景観・環境整備のイメージ

◇前回・今回とも「緑の多い公園都市」が最も多く、同じく最も少ないのは「国際色豊かな国際交流都市」となっています。また、今回では「賑わいのある商業観光都市」が前回4位から3位へとランクを上げています。

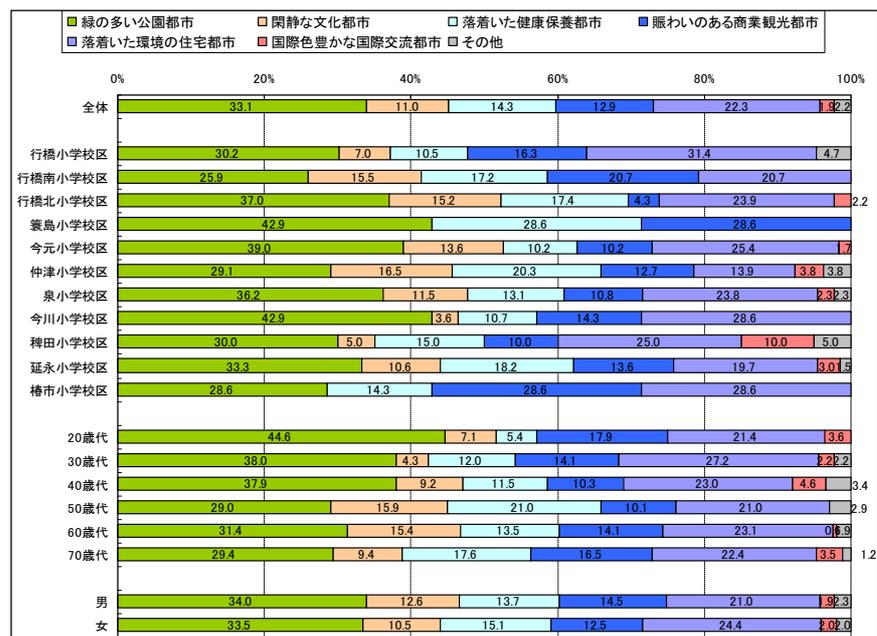
■今回調査集計グラフ

◇今回調査：回答者の多いのは、「緑の多い公園都市」27.2%、「落ち着いた環境の住宅都市」26.0%、「賑わいのある商業観光都市」19.1%の順となっています。校区別では、「緑の多い公園都市」は稗田小学校区で36.8%と他に比べ高く、「落ち着いた環境の住宅都市」では、行橋北小学校区で40.4%と高くなっています。



■前回調査集計グラフ

◇前回調査：回答者の多いのは、「緑の多い公園都市」33.1%、「落ち着いた環境の住宅都市」22.3%、「落ち着いた健康保養都市」14.3%の順となつて

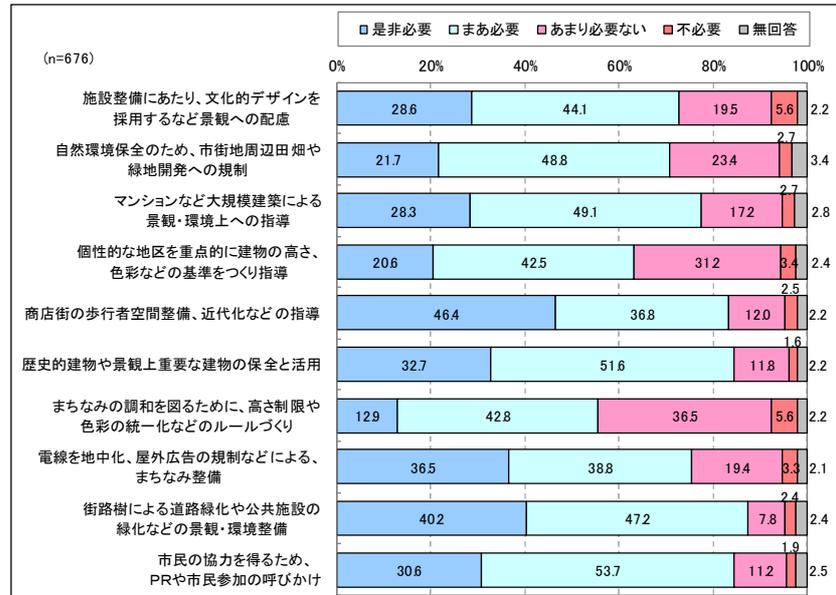


## ○問 2-7：景観・環境整備の必要性

◇前回・今回とも整備の必要性が高いと答えた人の多いのは、「街路樹による道路緑化や公共施設の緑化などの景観・環境整備」となっており、必要性が低いと答えた人の多いのは「まちなみの調和を図るために、高さ制限や色彩の統一化などのルールづくり」となっています。

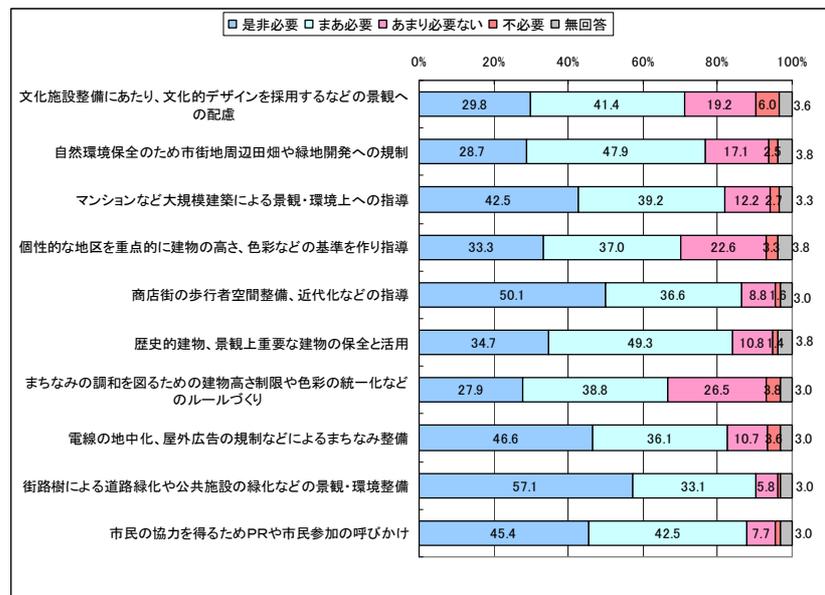
### ■今回調査集計グラフ

◇今回調査：是非必要とまあ必要の合計は、「街路樹による道路緑化や公共施設の緑化などの景観・環境整備」が最も多く 87.4%となっています。一方、あまり必要ないと不必要の合計は「まちなみの調和を図るために、高さ制限や色彩の統一化などのルールづくり」が最も多く 42.1%となっています。



### ■前回調査集計グラフ

◇前回調査：必要の合計は「街路樹による道路緑化や公共施設の緑化などの景観・環境整備」が最も多く 90.2%、不必要の合計は「まちなみの調和を図るために、高さ制限や色彩の統一化などのルールづくり」が最も多く 30.3%となっています。



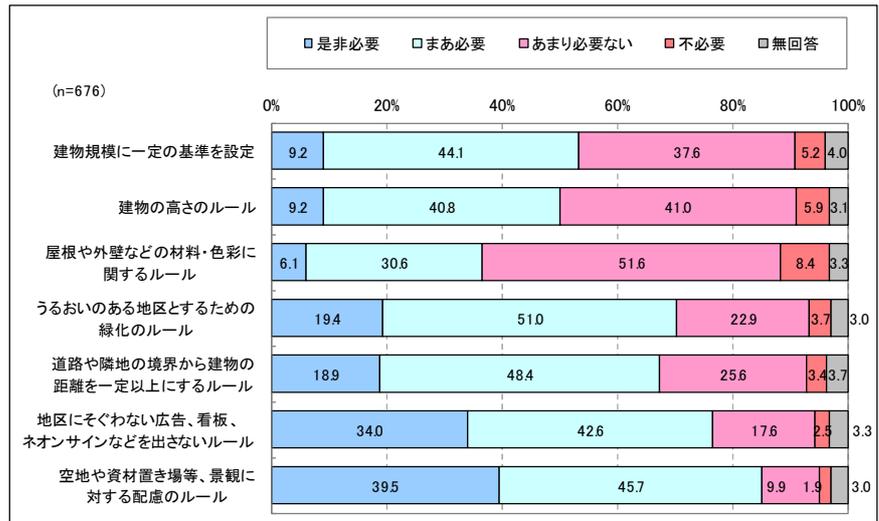
## (2) お住まいの地区の景観について

### ○問3-3：基準（ルール）の必要性

◇空地や資材置き場等、景観に配慮するためのルールの必要性（是非必要とまあ必要の合計）が前回・今回とも高く、屋根や外壁の材料・色彩に関するルールの必要性（是非必要とまあ必要の合計）は、比較的低い結果となっています。居住区別では、行橋・今川小学校区以外の居住区や年齢別、性別で不必要（あまり必要ないと不必要の合計）の評価となっています。

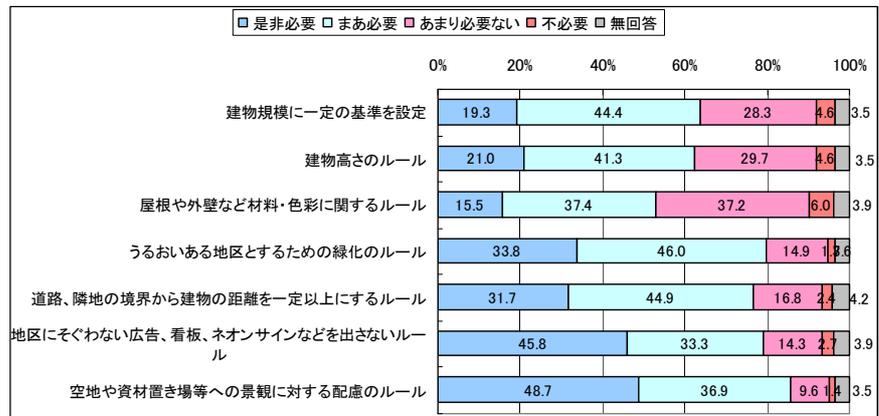
■今回調査集計グラフ

◇今回調査：ルールの必要性（是非必要とまあ必要の合計）が高いのは、「空地や資材置き場等、景観に対する配慮のルール」85.2%、次いで「地区にそぐわない広告、看板、ネオンサインなどを出さないルール」76.6%、一方、不必要（あまり必要ないと不必要の合計）の回答が多いのは、「屋根や外壁などの材料・色彩に関するルール」60.0%となっています。



■前回調査集計グラフ

◇前回調査：「空地や資材置き場等、景観に対する配慮のルール」85.6%、次いで「うるおいある地区とするための緑化のルール」と「地区にそぐわない広告、看板、ネオンサインなどを出さないルール」が何れも79.1%となっています。



### ○問 3-4 : 行橋らしいと感じる景観

◇最も行橋らしいと思う景観については、前回・今回とも今川（河川敷を含む）と答えた人が最も多く、具体的には桜並木、菜の花、コスモスなど、花々が咲き誇る景観と答えた人も多く、今川周辺の景観に愛着を抱いている人が多い結果となっています。

◇**今回調査**：最も行橋らしいと思う景観は、今川（河川敷を含む）を挙げた人が最も多く、他に平尾台の景色や、海・川・山の自然景観、田畑などが行橋らしい景観として挙げられています。

◇**前回調査**：最も行橋らしいと思う景観は、今川（河川敷を含む）を挙げた人が最も多く、他には今川から望む平尾台の景色や、海、河川、山の自然景観、果樹園や田畑、八景山の景色などが挙げられています。

### ○問 3-5 : 特に景観を損ねているもの

◇特に地区の景観を損ねているものは、前回・今回ともに空き家・空き地やゴミの放置が挙げられています。

◇**今回調査**：特に景観を損ねているものは、空き家・空き地、ゴミの放置が最も多く、他に各所（空き家・空き地、河川）の雑草、狭い道路などの意見が多く挙げられています。

◇**前回調査**：景観を損ねているものとして、最も多かったのはゴミの放置で、ゴミの不法投棄や放置に対する不平不満は非常に大きく、他には高層マンション、老朽化した市営住宅、パチンコ店（ネオン）、狭い道路などの意見が多く挙げられています。

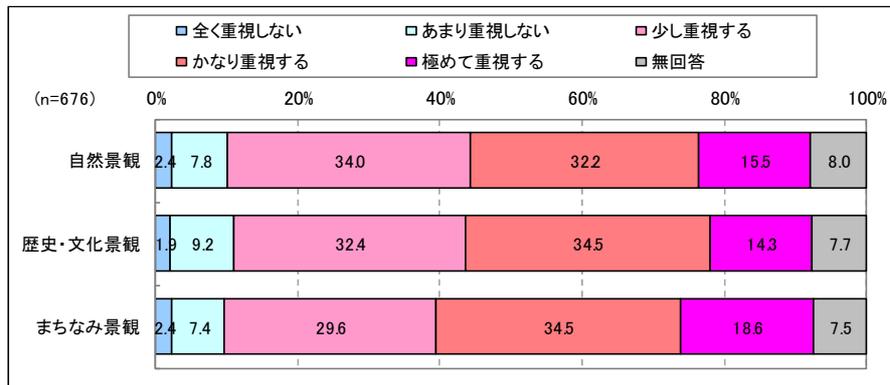
### (3) 各景観要素の重要度について

○問 4-1：今後、景観を保全・整備する時に重視すべきこと

◇前回・今回とも、全ての項目で重視するとの回答（少し重視する、かなり重視する、極めて重視するの合計）が多い結果となっています。

◇今回調査：全ての項目で重視するとの回答（少し重視する、かなり重視する、極めて重視するの合計）が多い結果となり、「まちなみ景観」が 82.7%で最も多く、次いで「自然環境」81.7%、「歴史・文化景観」81.2%の順となっています。

■今回調査集計グラフ



◇前回調査：自然景観、歴史・文化景観、まちなみ景観いずれも「かなり重視する」が最も多く、次いで「少し重視する」、「きわめて重視する」の順で、「全く重視しない」はどれも2%未満と僅かとなっています。

■前回調査集計グラフ

